

外国人留学生の生活環境による日本語学習への影響

—地方大学で学ぶ留学生の意識調査から—

深田 絵里

1. はじめに

近年、外国人留学生数は急激に増加しており、2008年に発表された「留学生30万人計画」達成も間近とみられる。一方で、2010年の法改正により「就学」と「留学」の在留資格が「留学」に一本化されたことで、数値は増えても、学業に専念できる「留学生」ばかりではないのが現状であり、その背景は多様化していると考えられる。

地域別に留学生数を比較すると、関東、中部、近畿地方に8割以上が集中しており、最も少ない四国地方には全体の0.6%、4県合わせても1,826人しかいない（日本学生支援機構調べ、平成30年5月1日現在）。このような地域差は、留学生の対人環境、ひいては日本語学習になんらかの影響があると推測される。そもそも、多様な学習者の「学習環境」が多様である（林 2005）ことは必然であろう。「留学生」とひとくくりにされながらも、学習環境は均一ではない。多様性に対応する一つの視点として、外国人留学生の生活環境にも目を向け、日本語学習のより良い環境づくりのために観察が必要である。

2. 先行研究

学習者と環境との相互作用について注目した研究として、文野ら（2004）による「日本語学習者と環境との相互作用に関する研究」がある。この中で文野は、多様性、ニーズ、学習観という視点から質的研究の手法を用いて、学習に関わる要因を明らかにするために学習相関図による記述や半構造化インタビューによる調査の有効性を述べている。今回の調査でも、インタビューによる質的研究の手法で分析を試みる。

学習環境の地域性に着目した研究としては、吉川（2012、2013）が、愛媛県の地方都市にある短期大学において、学習環境が学習意欲に与える影響についてのインタビュー調査を行っている。その中で、地域住民との接触機会に恵まれ、交流活動を多く提供していると教師が考える学習環境において、どのような学習環境との相互作用があるのかを記述し、学習意欲への影響を考察している。

四国以外の地方の研究では、金城・元山・肖（2007）が、沖縄県内の私費学部留学生3名を対象にした日本語学習者と環境との相互作用に関する調査を行っている。就学生から学部生への変化と同時に、居住地の移動により生活環境も変わった学習者と環境との相互作用についての変容が、個別インタビューをもとに分析されている。

3. 調査概要

3-1. 目的

筆者が勤務する、四国地方にある国立大学に在籍する外国人留学生に対して、以前居住していた地域と現居住地と、日本語学習環境に着目しどのような違いがあるか意識調査を行うこと。その中で、対人環境、非対人環境（文野他 2004）という項目それぞれについて観察する。そして、学習者と環境との相互作用について分析し、現在の課題を挙げたい。

3-2. 方法

大学入学以前に、国内の他地域で日本語を学んでいた外国人留学生 3 名に対して半構造化インタビューを行った。質問内容は、文野（2004）の「日本語学習者と環境との相互作用に関する研究」における調査で使用された質問票、および「日本語学習環境の地域差における課題と展望」（深田 2017）の質問項目を参考とし、当該地域に関する項目を加えて作成した。また、「現在の満足度」として学習環境、人間関係などについて 5 段階の数値で答えてもらった。語られた内容についてその文脈から分析を試みる。

3-3. 手続き

調査にあたって、インタビュー協力者には、収集した内容を研究目的以外には使用しないことを伝え、書面でも確認し、インタビューをボイスレコーダーに録音した。また、言いにくいこと、話しにくいことは話さなくてもいいことを事前に伝えた。

3-4. 調査協力者

調査協力者について、表 1 に示す（2019 年 3 月 18 日現在）。また、以前と現在の居住地の人口情報を表 2 に示す。

表 1 調査協力者情報

名前（性別）	国籍	所属	以前の居住地	インタビュー時間	日本語レベル
H（女性）	ベトナム	学部 1 年	岩手県 M 市	1 時間 15 分	N1
M（女性）	ベトナム	学部 2 年	岡山県 O 市	1 時間半	N1、J2 (BJT)
C（男性）	中国	学部 2 年	東京都 S 区	1 時間 10 分	N1、J2 (BJT)

表 2 三人の前居住地および現居住地の情報*

地域		総人口【人】	在留外国人数【人】(外国人率%)	都県内留学生数【人】
以前	岩手県	1,264,329	6,550 (0.5)	360
	岡山県	1,920,619	25,594 (1.3)	3,331
	東京都	13,637,346	521,502 (3.8)	114,833
現在	愛媛県	1,394,339	11,591 (0.8)	631

*総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（平成 30 年 1 月 1 日現在）」、JASSO「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果（平成 30 年 5 月 1 日現在）」参照

4. 調査結果

4-1. 留学生 H の場合

ベトナム南部の出身。ホーチミンの日本語学校で 1 年間勉強してから来日した。日本に住んで 2 年半になる。うち 1 年半は、岩手県 M 市の専門学校で学んだ。岩手では学校の寮に住んでいたが、現在は一人暮らしである。ベトナムで N3 に、専門学校で N2、去年 N1 に合格した。趣味はインターネットで韓国や日本のドラマを見ることである。

愛媛に来て良かったと思う。受験で来た時、街の雰囲気がいいと思った。M 市の寒くて寂しげな雰囲気と比べて、家族連れをよく見かける。賑やかでいいと思う。大学のことは全然知らなかったが、説明会で知り、調べるとベトナム人の先輩もいたので受験した。

4-1-1. 対人環境

1) 以前

M市の中心地に住んでいたのですが、生活は便利だったが、日本人との交流はあまりなく、毎日会うのは先生かアルバイト先の人だけだった。英語は聞くことはできても話すのは難しいので、日本語でコミュニケーションをとっていた。外国人（留学生）は、寮にはベトナム人しかいなくて、学校には中国人やネパール人が多かった。先生が少なくて、クラスの人数が多かった。街全体も人が少ない印象である。はじめは日本語ができなかったので、アパートの食堂や居酒屋の洗い場で働いていた。ほかに、居酒屋のホールスタッフ、新聞配達、レストランのキッチンスタッフをしていた。慣れてからは、ホールスタッフになった。食事付きの飲食店のアルバイトが多かった。休日も、日本語学校に紹介されたお弁当屋でアルバイトをしていた。

2) 現在

M市より若者が多くて、人が優しい印象である。日本人と会ったり、話したりする機会も多い。(大学の)先生の話、プレゼンテーションを聞くことにも慣れた。日本語だけではない知識が得られる。色々な知識と同時に日本語を学べる。M市で交流会があるときは一対一で、日本人は易しい日本語を使って、わかりやすく話してくれた。大学では、まだ日本人同士の話に入りにくいこともあるが、日本人の生の日本語に触れる機会がある。

表 3-1 H の対人環境

よく会う人	属性
アルバイト先の日本人	大学生（男女）
外国人留学生	ベトナム人、同い年
外国人留学生（複数）	中国、韓国、フィリピン、マレーシア
日本人学生（グループ）	同じ学部の7人ぐらい

4-1-2. 非対人環境

テレビが、日本語学習に一番役に立つと思う。週に1~2回、携帯のアプリで見ている。今はバラエティ番組の内容もわかる。新聞は、以前は読んでいたが今は読まない。パソコンや携帯電話の辞書をよく使う。アプリの機能は良くなっており、例文や説明も充実していて使い易い。文法はテキストを買って勉強した。インターネットでは動画やニュースを見る。聞き取りが上達すると思う。

4-1-3. 学習環境の満足度

日本語学校では、イヤホン、タブレットPCの貸し出しがあった。能力試験対策の時、借りて使っていた。問題集もあった。設備はいいが、先生が少なくて、クラスの人数が多かった（20人以上）ので、必ずしも満足はしていなかった。周りも留学生ばかりだった。

大学では、日本語だけではない知識が得られる。色々な知識と同時に日本語を学べる。

表 3-2 現在の満足度：1（低）～5（高）

項目	得点	理由
学習環境	4	・まだ日本語能力は思うようにならない ・日本語能力は上がっていない
人間関係	日本人と 3 外国人と 5	・まだ思い通りに話せない ・話しやすい、共感できる

生活環境	5	・食べ物が美味しい ・みかんが安い	平均値
余暇・趣味	4	・旅行がしたい	
アルバイト	4.5	・人間関係が時々難しいが、概ね満足	4.3

4-2. 留学生 M の場合

出身はベトナム北部。日本に来て 4 年になる。ベトナムの大学を 1 年終わってから日本の大学に進学するため留学した。岡山の大学の留学生別科で学んだあと、専門学校を 1 年で修了して大学に進学した。去年 N1 に合格した。BJT は今年受けて J2 レベルの判定。趣味は読書と、粘土でものを作ること。動物作って人にプレゼントすることもある。うちにいるときは自分で料理するが、大学では学食で食べることが多い。

4-2-1. 対人環境

1) 以前

日本人との交流はあまりなく、外国人の友達（中国人かベトナム人）が多かった。学校が終わったらアルバイトがあり、日本人と話すのはアルバイト先だけ。大学受験を目標に勉強とアルバイトだけに集中して、休みの日に遊びに行くこともなかった。はじめは自分で仕事を探せなかったので、学校が紹介してくれたお弁当工場ですべて働いていた。奨学金も学費免除もなかったため、休みの日も勉強かアルバイトをしていた。学校の先生たちは、大学受験や日本の習慣について教えてくれたので、生活で困ることはなかった。面接の練習や願書のチェックもしてくれた。

2 年間友達と寮に住んでいて、部屋は別々でプライバシーがあり、ご飯を一緒に食べることができた。ベトナムから一緒にきた仲間で、学校に頼んで一緒にの部屋にしてもらった。喧嘩もなく、このグループで良かったと思う。

2) 現在

大学に入ってから、アパートで一人暮らしをしている。入学当初は友達がいなかったため、1~2 ヶ月は寂しかった。アパートは外国人専用だが、家具付きで場所も便利なので満足している。愛媛では、日本人と会う機会が増えた。大学の授業でクラスメートはほとんど日本人学生なので、いつも日本語を使う。人間関係はよくなった。「日本語が上手になったから」というのと同時に、「友達ができたから」日本語が上手になったと思う。以前は、外国人の友達と片言で話していたので、日本語が上達しなかった。またアルバイトもあって忙しかった。今はよく遊んでいる。楽しいが、話したいことがあってもそばに相手がないのは寂しい。一人なので、何でも自分でしないといけない。以前は、どこへ行くにも友達と一緒にだった。

表 4-1 M の対人環境

よく会う人	属性と関係
M さん	日本人女性。アルバイト先（ホテルの洗い場）の人。雑談や悩みなど何でも話す。出会って 1 年半くらい。アルバイトで会うだけ。
NG さん	ベトナム人女性。友人。大学院生。メッセージを送り合ったり、会ってご飯を一緒に食べたり、うちに行って遊んだりしている。
L さん	ベトナム人女性。大学 4 年生。卒業する先輩。受験の時先輩の部屋に泊めてもらった。忙しいのであまり会わないが、時々、一緒に食事する。

Pさん	親戚のベトナム人女性。ベトナム在住。同じ年で友達のような存在。ベトナム語でSNS、ビデオチャットをする。何でも話せる。
Nさん	日本人女性。大学の卒業生。お正月、彼女の家に行ったことがある。県内の別の市に就職しているが、訪ねてくることもある。知り合いの日本人の中で一番親切な人。
大学の友達 (グループ)	留学生向けキャリア教育の授業で知り合い、授業が終わってから何度も会った。日本語で会話している。

4-2-2. 非対人環境

テレビはよく見る。好きな番組は毎週見ている。今は、忙しくて見られないこともある。テレビでは見ないが、日本語がわかりやすいのでアニメも見る。テレビは日本語の上達に役立つと思う。大学受験のとき言葉の勉強のためにNHKを見ていた。今テレビを見て大体的内容を理解できる。楽しい番組を見るとリラックスできる。

大学に入ってから専門の本を日本語で読んでいる。子供用の本や物語、小説を読むこともある。話し言葉、会話、知らない言葉を学べるし、日本についての知識も増えるし、読んで楽しいと思う。インターネットではドラマを見たりリスニングの練習をしたりする。

4-2-3. 学習環境の満足度

日本語学校に図書室はあったが、本を借りたい時は県立図書館に行った。今は大学の図書館を利用している。岡山では、テレビ（ドラマ）と本で勉強していた。

日本語学校、別科、大学で違うところは、クラス環境。以前は日本語しか勉強しなかったが、今はいろいろな授業があつて日本語はもちろん他の情報も知識も身につく。先生の話聞くだけで聴解の練習ができる。周りがみんな日本人で、ずっと日本語で話している。

表 4-2 現在の満足度：1（低）～5（高）

項目	得点	理由	平均値
学習環境	5		
人間関係	日本人と 5 外国人と 4		
生活環境	4	・スーパーが遠い ・交通が不便	
余暇・趣味	4	・以前は勉強以外のことを考えなくても良かった	
アルバイト	4.5	・給料は普通だが自分で仕事を探せる	
			4.4

4-3. 留学生 C の場合

中国の北東部出身。日本に来て3年半になる。約1年、日本語学校で勉強してから大学に進学した。今は一人暮らしをしている。最初は留学が目的だったが、勉強するうちに日本での就職も考えるようになった。日本語学校でN2を受験したときは不合格だったが、今はN1に合格して、BJTもJ2の判定。趣味は、日本のドラマを見ることと、服（古着）を買ってリメイクすることである。

4-3-1. 対人環境

1) 以前

日本語学校では、若い先生やアルバイト先の日本人との交流があつた。先生は20人く

らいいて、学生は韓国人、中国人が多かった。来日当初は、日本語能力試験を受けておらず簡単なことしか話せなかった。外国人の友達も中国人、韓国人がいて、韓国人とは片言の日本語で話していた。コンビニでアルバイトをしており、同僚は高校生だった。時給は今の倍くらいあった。来日前に学校に近いマンションを学校の先輩に紹介してもらって住んでいた。交通も便利で、部屋は静かだった。今と比べて断然よかった。午前は勉強、午後はアルバイトか遊び、という一日で、生活はこれまでの人生で一番楽しかった。休みの日は友達と電車に乗って面白いところに遊びに行った。観光したり買い物をしたり、友達の誘いで美術館や面白いビル、建築を見に行ったりした。働くより遊ぶことが多かった。

2) 現在

東京では中国人と接することが多かったが、松山に来てからはアルバイト先でも授業でも日本人との接触が多くなった。アルバイト先の食事会が1ヶ月に1~2回定期的にある。

表 5-1 C の対人環境

よく会う人	属性と関係
Aさん	中国人女性。大学の先輩。友達。中国語と日本語で話す。
Bさん	アルバイト先の古着屋の店長。20代の日本人男性。仕事の時に話したり、ご飯を一緒に食べたり、たまに中国語を教えてくれと言われる。
Cさん	ベトナム人女子留学生。大学の同期。研究室のことを話したり、一緒に食事したり、日本語で話す。たまに中国語を教えてと言われる。AさんとCさんとは一緒にカラオケに行った。
Dさん	日本語学校の同期で、今は東京の大学院生。中国人女性。よく電話していて、この前遊びにきてくれた。
Eさん	日本人女性。大学の同期。同じ授業を取っているのので、授業のことやテストの話で授業で会って話す。それほど親しくはない。
大学の友達 (グループ)	京都に研修で行ったときのグループメンバーで、以後何度も集まっている。日本人と中国人。一緒に食事したり、カラオケに行ったりする。

4-3-2. 非対人環境

日本語学校の設備は良かった。図書室があって、必要なとき図書を借りることができた。日本語の勉強には、テレビと電子辞書をよく使っていた。

テレビはほぼ毎日見ている。ドラマ、バラエティなどを見ていて、ニュースは見ない。テレビが一番日本語上達に役立つと思う。日本のドラマが好きで、はじめは字幕付きで見れていたが、字幕なしで見ようと思ひ、見ていたら聴解力がついた。文と文の繋がり、話し言葉と書き言葉の違いに気がついた。リラックスできるし、楽しみになっている。

新聞は読まない。アルバイト先でお店の経費でファッション雑誌が買えるので、読んでいる。雑誌の言葉は特殊なので勉強になる。若者向けの言葉、流行りのワードがわかる。雑誌を読んでいてわからないことも多い。先輩が近くにいれば聞くがいなければそのまま。

大学の専門の教科書や先生が配るプリントは日常的に読んでいる。理系の本はカタカナが多い。授業は全部日本語で、専門用語を覚えられるが、楽しくはない。必要だから読んでいる。SNSは友達、バイト先の先輩、接客して仲良くなった顧客とのやりとりに使っている。楽しいし、日本語上達に役に立つと思う。毎日使っている。

4-3-3. 現在の環境の満足度

東京では周りがほぼ外国人だった。その中で、日本語ができる人とできない人の差があ

ることを感じていた。できる人は優遇されていた。愛媛では、それをあまり感じない。外国人への思い込み、偏見はあると思う。最近、自分は外国人扱いされなくなった。愛媛で不満に思うことは、モバイル Wi-Fi ルーターを街中で使うと速度が遅いこと。インターネット環境は、東京のほうが良いと思う。

表 5-2 現在の満足度：1（低）～5（高）

項目	得点	理由	平均値
学習環境	2	・自分の学部の所在地が中心地から離れていて不便	
人間関係	4		
生活環境	1.5	・交通が不便	
余暇・趣味	1.5		
アルバイト	4	・なにかやりたいとき、教えてくれる ・チャンスを与える	2.6

5. 考察

三人の満足度の数値をまとめると、表 6 のようになる。

表 6 現居住地の満足度

名前（前居住地）	H（岩手県）	M（岡山県）	C（東京都）	全体平均値
学習環境	4	5	2	3.7
人間関係	日本人と 3 外国人と 5	日本人と 5 外国人と 4	4	4.2
生活環境	5	4	1.5	3.5
余暇・趣味	4	4	1.5	3.2
アルバイト	4.5	4.5	4	4.3

H は、来日当初過ごした M 市では日本人との接触機会があまりなく、寮に住んでいたのがベトナム人と一緒に過ごすことが多かったようだ。そのため、大学に入って日本人と接する機会は増えたものの、まだ「(自分の) 日本語はあまり上手じゃなくて、グループの人と合わない」と感じている。これは「自分の性格も影響している」と述べている。また、愛媛に来てまだ 1 年目で「慣れていないため、積極的になれない」という。その一方で、現在の環境についての満足度は高い。同様に M も、目標を大学進学に絞って日本語学習に励み、ビジネス日本語能力テスト (BJT) を受験するなど、一貫して向上心を持って取り組んでいる。H と M は日本語学校で学んでいたとき、学費や生活費を工面するために休日もアルバイトづけの生活を送っていたためか、大学入学後の生活の満足度は高い。M は、岡山にいたときは「どこにも遊びに行かないで勉強とアルバイトで忙しかったが、今は遊ぶのに忙しい」と述べている。二人とも質問のすべての項目において現在の環境の満足度は高い。

H と M が人口規模では現在の居住地とさほど変わらない地方都市に住んでいたのとは対照的に、東京にいた C は「人が多いのが嫌になって」人が少なそうな地方大学を選んだという。しかし、余暇の楽しみや交通の利便性では現在の環境に不満がある。また、東京にいたときは日本語がまだ不自由だったため、「日本語ができる外国人」が優遇されることに敏感になっており「今東京に住んでいたらすごく楽しいと思う」と述べている。一方で、趣味である古着を扱うアルバイトをしていて、時給は安いですが仕事には満足しているという。

満足度を三人の平均値で見ると、「人間関係」と「アルバイト」についての評価が高い。これは、三人の語りからも明らかであるように、以前いた場所との比較からというより、「日本語学校」と「大学」の環境の違いが要因と考えられる。M が語ったように、大学では学費免除や奨学金制度が充実しているため、学業と余暇を楽しむ時間が確保でき、日本語も上達して「自分で仕事を選べる」ので、このような数値になったと推測される。

6. まとめ

日本語学習において「人間関係」に愛媛県特有のよさを語る在住外国人は先行研究でも確認されている（深田 2017、2018）。一方で、地方が都市部と比較して「交通の不便」があるのは個人では解決できない課題である。また今回、留学生に限定して意識調査を行ったことで、日本語教育機関の課題も明らかになった。今後、居住地域に限らず学習者がストレスなく学び生活していける環境を築くためには、生活に無理のない学費、仕事を選べる自由があることも必要である。

日本の地域社会の活性化に外国人材が必要であるなら、外国人の立場で生活のメリットを考える必要がある、外国人と受け入れる側それぞれに多文化共生のための歩み寄りが必要ではないだろうか。

<参考文献>

- 金城尚美・元山由美子・肖媚(2007)「日本語学習者と環境との相互作用に関する一考察—3人の学部生の調査から—」『留学生教育：琉球大学留学生センター紀要』4：43-66
- 林さと子(2005)「〈学習環境〉からみた日本語教育」『言語』34(6)：50-57、大修館書店
- 文野峯子(2004)「日本語学習者と環境との相互作用に関する研究」『平成13年度～15年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(2)課題番号13680365 研究成果報告書』
- 深田絵里(2017)「日本語学習環境の地域差における課題と展望—留学生に対する意識調査(日本語学習環境比較)からの考察—」『日本語教育論集』26：33-41
- 深田絵里(2018)「愛媛県南予地方における日本語学習環境の課題：「生活者としての外国人」に対する意識調査から」『日本語教育論集』27：40-47
- 吉川景子(2012)「学習環境が学習意欲に与える影響：短期留学生へのインタビュー調査から」『日本語教育論集』21：81-88
- 吉川景子(2013)「留学生を取り巻く学習環境と日本語学習意欲への影響」『日本語教育論集』22：49-56

<参考資料>

- 総務省 HP「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(平成30年1月1日現在)」
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei02_02000177.html(2019年3月18日取得)
- 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)「平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果(平成30年5月1日現在)」https://www.jasso.go.jp/sp/about/statistics/intl_student_e/2018/index.html(2019年3月19日取得)

(ふかた えり 愛媛大学)